

## A61a 学校天文台小口径望遠鏡の活用

宮下 敦 (成蹊高校)、DISC プロジェクト参加校

さまざまな活動天体の検出やモニターのためには、全国に展開された天文台ネットワークが必要である。学校天文台はそうしたネットワーク構築が可能な施設の1つである。

DISC プロジェクトは、しし座流星群高校生全国同時観測会を機に生まれた学校天文台ネットワークで、冷却 CCD カメラを持つメンバーが多いという特徴を活かし、過去10年ほどの間に高校生でも可能な観測テーマに挑戦してきた(例えば、DISC プロジェクト参加校、2007、2008)。深夜の観測が難しいことや、機材更新予算が豊かではないので、天文台としての機能は制限されるが、小惑星や激変星の連続測光やトランジット法による系外惑星の観測など、DISC プロジェクト参加校の実践は、学校天文台の可能性の1つを示すものである。今回は、その事例を数多く紹介する。

また、天体望遠鏡は、気象観測機器とともに、学校現場で本物の科学的な観測ができる装置の1つである。これが整備されることで、生徒自身がリアルサイエンスを体験できる場となり、教育面でも効果が期待できる。天文学専攻ではない教員が、仕事として学校天文台を活かすためには、分かりやすい情報が入手できること、および扱いやすい機材が整備されることが必要である。

### 引用文献

- ・DISC プロジェクト参加校、(2007)、高校生が挑む太陽系の不思議1、惑星科学ニュース、19、4、5-7
- ・DISC プロジェクト参加校、(2008)、高校生が挑む太陽系の不思議2、惑星科学ニュース、20、1、8-10